

編集後記

「大衆文化」第十二号です。

十月二十一日、乱歩生誕百二十周年記念イベント「乱歩の想い出」を開催いたしました。立教大学池袋キャンパス十一号館の大教室にて、作家の北村薫氏、編集者の戸川安宣氏のおふたりに乱歩について語っていただきました。また、学術調査員の落合による資料紹介と乱歩邸の特別公開も合わせて行いました。二百人を超える方にお越しいただくことができました。

十一月二十二日には「北欧ミステリー・フェス二〇一四」が立教大学池袋キャンパス八号館にて開催されました。北欧五大使館主催で、大衆文化研究センターも協力いたしました。レーナ・レヘトライン氏（フィンランド）、カミラ・レックパリ氏（スウェーデン）、お二人のミステリー作家が来日しました。作家の堂場瞬一氏によるスウェーデン取材報告、三人の翻訳家（柳沢由実子氏、ヘレンハルメ美穂氏、古市真由美氏）が文化の違いや翻訳のご苦労などについて話され

ました。総合同会は評論家の杉江松恋氏でした。

Echika 池袋にて「江戸川乱歩展」乱歩が池袋に残したものの「」がありました（二〇一五年一月三十一日～二月二十六日）。乱歩邸より、愛用品のステッキや帽子、眼鏡などが展示されました。「貼雑年譜」の複製や、光文社版の少年探偵団シリーズも並びました。乱歩が戦時中に作成した町内会用の資料も展示されたほか、パネルでは乱歩と池袋のかかわりが説明されました。

二〇一五年二月より刊行されている春陽堂の江戸川乱歩文庫は、大衆文化研究センターが協力しています。解説には「貼雑年譜」ほか、寄託資料の画像などを紹介しています。

二〇一五年は乱歩没後五十年にあたり、昨年に引き続き多くの企画が予定されています。いくつかにはセンターも協力していくことになっています。

（落合）